

薬剤師の介入によりアシクロビル脳症の重篤化を防いだ1症例

福田結彩*, 山崎美保*, 濱崎浩一*, 和泉寿紀*, 水口真利江*, 福澤正隆**, 前田頼伸***,
面田恵*

Journal of Japanese Society of Hospital Pharmacist, 56(6), 663–667, (2020).

A Case of Avoiding Seriousness of Acyclovir Encephalopathy by Pharmacist Intervention

YuSa Fukuda, Miho Yamasaki, Koichi Hamasaki, Kazuki Izumi, Marie Mizuguchi,
Masataka Fukuzawa, Yorinobu Maeda, Kei Omoda

抄録 バラシクロビルは単純ヘルペスや水痘・帯状疱疹治療薬として広く使用されているが、腎排泄型薬剤であるため、腎障害患者や高齢者などの腎機能低下患者において精神神経系の副作用を生じやすいと言われている。今回、帯状疱疹に対してバラシクロビル1,500mg/日を服用した腎機能低下患者が、意識障害などの中枢神経症状を発現した。最終投与約3時間後のアシクロビルの血清中濃度は14.67u g/mLと異常高値を呈し、血清中濃度が5.22u g/mLまで低下した時点で意識レベルが改善した。アシクロビルの髄液移行性は外国人データにおいて約50%と言われており、アシクロビルの血清中濃度が高値である場合、髄液中濃度も相対的に高値となり、精神神経症状が出現したと考えられた。特に腎機能低下患者に対するアシクロビル投与時は、短期間のうちに血清中濃度が高値となりやすく、重度の精神神経症状を来すおそれがあり、適切な用量調節を行うことが重要であると考えられた。

* Department of Pharmacy, Chugoku Rosai Hospital

独立行政法人 労働者健康安全機構 中国労災病院 薬剤部

** Department of Pharmacy, Kansai Rosai Hospital

独立行政法人 労働者健康安全機構 関西労災病院薬剤部